

第3章 現状と課題

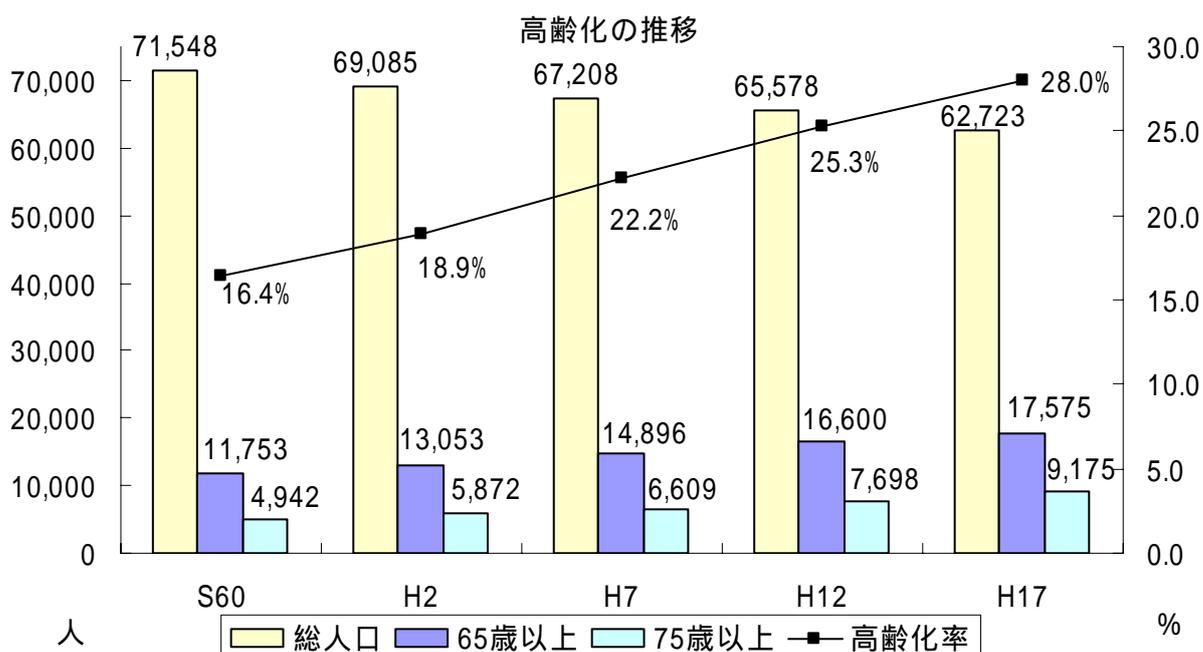
1. 各種計画からみた人口構成等の状況

(1) 人口・世帯数の推移と高齢化の状況

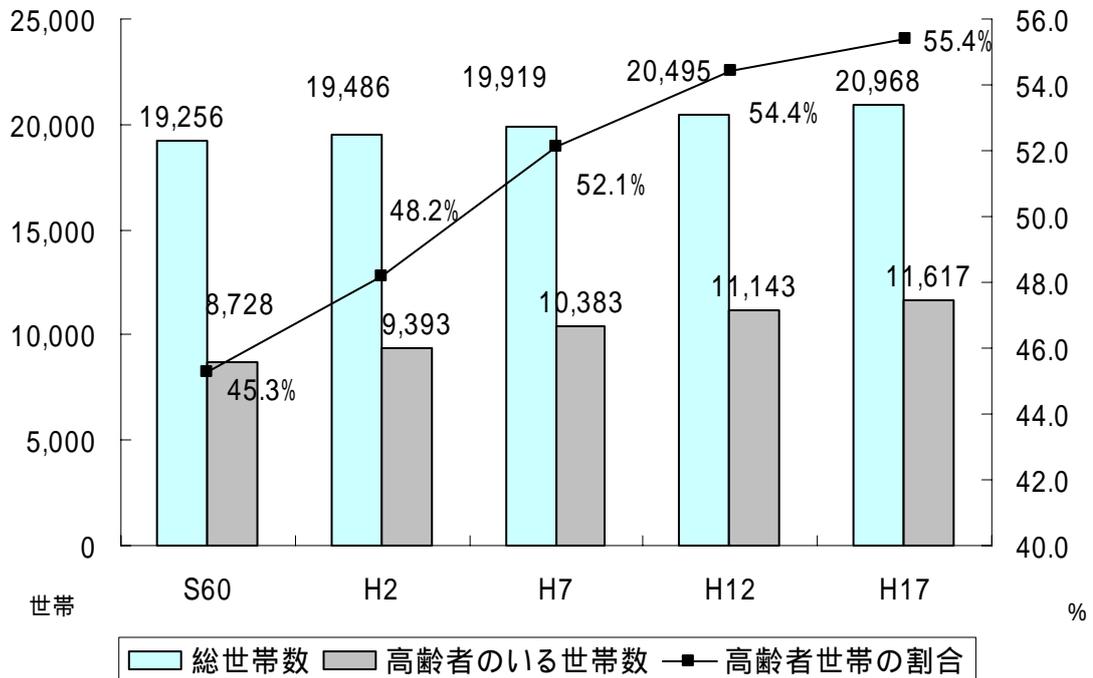
本市の総人口は昭和60年の71,548人から減少傾向にあり、平成17年は62,723人となっています。「65歳以上」の人口については、昭和60年以降増加傾向が続き、平成17年には17,575人となっています。特に後期高齢者(75歳以上)については急激な伸びをみせており、平成17年には9,175人と昭和60年時点の約1.9倍となっています。高齢化率も昭和60年16.4%から平成17年は28.0%と高くなり、市民4人に1人は65歳以上の高齢者となっています。

世帯状況の推移をみると、家族形態の多様化などを背景に「総世帯数」は増加し続けており、昭和60年では19,256世帯、平成17年は20,968世帯となっています。「高齢者のいる世帯数」についても増加傾向が続いており、平成17年には総世帯に占める割合が55.4%(11,617世帯)となっています。また、「高齢者単身世帯」、「高齢者夫婦世帯」(夫婦ともに65歳以上の世帯)についても、ともに増加傾向にあり、今後、団塊世代の高齢化により、「高齢者のいる世帯数」の増加は一層進むものと予想されます。

(資料：国勢調査)



高齢者世帯の推移



(2) 少子化の状況

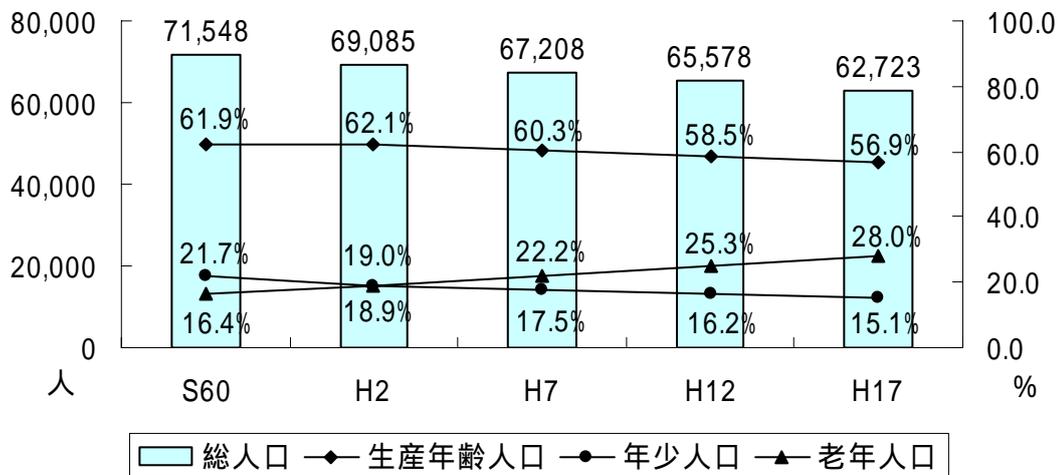
本市の年齢別人口構成比率をみると、老年人口(65歳以上)は昭和60年(16.4%)から平成17年(28.0%)までの20年間で11.6ポイント増加し、反対に年少人口(15歳未満)は昭和60年(21.7%)から平成17年(15.1%)で6.6ポイント減少していることから、少子高齢化の現象が顕著に現れています。

本市の出生者数、出生率は、京丹後市次世代育成支援行動計画の現状からみますと、ともに平成12年を境に年々減少傾向にあります。また、出生率は、平成12年をピークに全国平均、京都府を下回る状況が続いています。一方、合計特殊出生率(用語解説3)については、同様に減少していますが、全国平均、京都府平均より高い値となっています。

このように、児童数や出生率の推移からみて、本市において少子化は明らかに進んでいます。さらに、未婚率の上昇から、少子化に、より一層拍車がかかることが予想されます。

(資料：国勢調査及び京丹後市次世代育成支援行動計画)

人口構成比の推移



(3) 障害のある人の状況

障害者手帳所持者数の状況は、平成16年は4,110人であり、平成18年は4,096人となっています。各種手帳別にみると、身体障害者手帳所持者数は、平成16年度3,425人から平成18年度3,329人と減少しています。療育手帳所持者数は、平成16年506人から平成18年530人、精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成16年179人から平成18年237人と増加傾向が続いています。

障害のある人も地域を構成する一員として自立し、積極的に社会参加ができるように、在宅サービスを展開するとともに、相談支援体制の充実にも努めているところです。

障害のある人の更なる自立と社会参加の支援、そして障害のある人を支える家族の負担軽減のため、地域社会の支えあい、助けあいに取り組むことが大切です。

(資料：京丹後市障害者計画)

